学 校 だ よ り

令和６年１月９日(水)　第９号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所　さいたま市岩槻区大字岩槻３７５０番地

電話　０４８－７５６－１１１７

学校 Web ページ　https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/

新学年０学期スタートの気持ちで

校　長　　細　井　博　幸

新年明けましておめでとうございます。今年一年が、皆様にとって、輝かしい実り多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新たな年を迎え教職員一同、気持ち新たに全力で教育活動に取り組んでまいります。本年も引き続き御支援、御協力をお願いいたします。また、元日に発生した令和６年能登半島地震で被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、年末年始、皆様はどのように過ごされましたでしょうか。私は、１２月２６日に第２２回さいたま市児童生徒ＩＣＴメディア作品コンクール本審査会に参加していました。このコンクールは、さいたま市立学校に通う児童生徒が、コンピューターで作成した作品を集め、優れた作品を表彰するものです。作品は多岐に渡り、イラストや写真リメイク、新聞といった静止画作品、実写やＣＧ、アニメーション、プレゼンテーションといった動画作品、プログラミング作品、そして情報モラルに関する標語の４つの部門ごとに最優秀賞が選ばれ、今月末に表彰式が行われます。私はこのコンクールに１５年以上関わってきましたが、コンピューターの進化や整備台数の増加に伴い、子どもたちの作品も大きく進化していることを毎年感じています。特に動画とプログラミング作品は、大人顔負けの作品が年々増えているように感じます。動画はビデオカメラで撮影されたものに、簡単な文字や音楽が入ったものから、YouTube のように、見やすいテロップ、映像に合わせた音楽や効果音が加えられたものへ。プログラミング作品は、学校においてプログラミング教育が導入されたここ５年で、ゲーム、クイズ、音楽など、多種多様な作品が出品されるようになりました。私も校長として生徒の表彰をしていますが、部活動、美術作品、感想文・標語・書写が多い中、コンピューター作品で表彰される本コンクールの存在は貴重なのではないかと考えます。私が以前担任した子どもたちが、本コンクールの最優秀賞である教育長賞を受賞したことがありました。表彰式に参加された保護者の方から、「うちの子は、小学校で初めて表彰されました。」と嬉しそうに声を掛けていただいたことが忘れられません。本校には、パソコン部のような部活動はなく、本コンクールへの出品もありませんでしたが、趣味で動画やプログラミング、デジタルアート等に取り組んでいる生徒もいるのではないでしょうか。次年度は、広く呼びかけ、お家で眠っている作品があれば、是非とも出品してもらいたいなと考えています。

本審査の様子

そんな年末を過ごした私ですが、大掃除を行い、正月飾りや鏡餅の準備をされた御家庭も多いのではないでしょうか。こうした新年に向けた準備には、どのような意味が込められているのでしょうか。それは、毎年お正月に各家庭にやってくる「年神様」（としがみさま）をお迎えするために行っている準備なのです。年神様の「年」は、稲の稔り（みのり）のことで、穀物の神様です。古代日本において、稲作が発達するにつれ、年の初めにその年の豊作をお願いしたことが、年神様をお迎えするという正月の中心行事として今も受け継がれているのです。ちなみに、正月の子どもたちの楽しみであるお年玉の「年」は年神様、「玉」はたましいや霊力を意味し、お年玉をもらうとは、年神様から１年分の力を得るという意味なのです。１年分の力を得る正月だからこそ、正月に年を１つとるという数え年の考え方にも繋がっていきます。お正月に１年分の力を得た子どもたちには、新学期、新たな気持ちで何事にも自分の持てる力を精一杯発揮して欲しいと願っています。そして、学年も数え年と同様に１学年進級し、０学期が始まったという思いで、本年度のまとめと新年度の準備を進めて欲しいと願っています。